作成：NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会　発行：浦添市教育委員会文化課

うらおそい歴史新聞

第14号
平成26年9月

歴史ロマン街道～尚寧王の道をたどる～を開催します

NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会は今年も文化薫るこの機に「歴史ロマン街道」～尚寧王の道をたどる～を十一月三日（祝）の文化の日に実施します。

浦添から第二尚王統七代目の王として即位した尚寧王が造った首里城久慶門辺りから浦添城までの約四キロの道程です。散策の途中数々の遺跡・文化財などが私たちを古の歴史ロマンに誘ってくれます。うらおそい歴史ガイド友の会のメンバーが丁寧にガイドします。申込は10月26日（日）まで。今回はコースの文化財の一部を紹介します。（粟森）

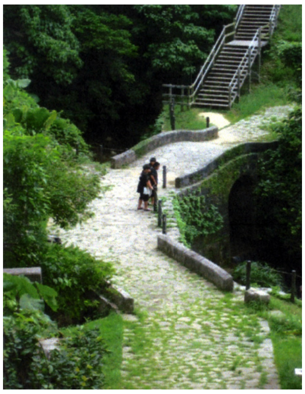
○浦添城の前の碑

この石碑は、尚寧王が1597年に浦添グスクから首里城までの道を整備した時の竣工記念碑です。碑文の表はひらがなの琉球文、裏は漢文で国中の人々が力を合わせ、橋を架け、岩を刻んで道路を造った時の様子が書かれています。碑首には18世紀の琉球王国の象徴である日輪双鳳雲文で飾られています。（安次富）

浦添城の前の碑
浦添城跡の南側に復元されています

○安波茶橋

1597年に尚寧王が、道を石畳に、板橋を石橋に造り替えました。当時は雨が降ると人の往来や物の運搬に支障をきたしていましたが、改修で風雨に関係なく通れるようになったことは素晴らしいことです。実際に道を歩きながら、なぜここに道を造ったのか？考えてみるのも楽しみ方の一つです。（古波蔵）



安波茶橋
平成24年に国の史跡に指定されました

○ニシヌヒラ（北の坂）

経塚を通る旧道の要衝で1923年（大正12年）に県道が開通するまで首里に向かう重要な道の一つでした。当時は石畳道であったために馬や馬車は通行できず、徒歩でしか通れませんでした。石畳の多くは沖縄戦で大きく損傷しましたが、1985年（昭和60年）頃にアスファルト直舗装、その後カラー滑り止め舗装がされ、現在は更に石畳道の一部が再現されています。急坂の地形に当時の面影を偲ぶことができます。フェーヌヒラとあわせて今回のコースの難所の一つです。（大濱）

ニシヌヒラ（北の坂）
急な坂を下ると浦添と首里大名を分けるアスファルト道で寸断されていますが、一直線に首里大名を結ぶフェーヌヒラ（南の坂）が見えます

○綾門大道

終点は首里城です。この道は、上の綾門と呼ばれる守礼門と下の綾門と呼ばれる中山門の間の道路で正しくは、「アイジョウフミチ」といいます。当時の道幅は十二mで、琉球石灰岩の砕片に線香の粉を混ぜる琉球独特の接着剤を厚めに敷き詰め、路面の艶出しとして石粉にネーナシカズラのつき汁をまき固めるという「サントウ」と呼ばれる舗装工法がなされていました。裸足でも気持ち良く、雨天もぬかるむことはなかったそうです。（粟森）

綾門大道（アイジョウウフミチ）
首里城の守礼門から玉陵へと通ずる琉球王国の主要道路の一つ。当時は周辺の安国寺や玉陵と並び都にふさわしい景観をつくっていました

浦添グスク・ようどれ館

【開館時間】午前9時～午後5時
【入館料】大人（高校生以上）100円小人（小中学生）50円
※市内小・中学生は無料
【休館日】月曜日・年末
【住所】〒901-2103
沖縄県浦添市仲間2-53-1
【電話】098-874-9345
【アクセス】琉球バス交通牧港線（55番）仲間バス停から徒歩5分
※地図など詳細は浦添市ホームページをご覧ください。